

①ユニバーサル (共生)

支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うこと (障壁や困難の解消 (時間・季節を問わず)、格差の是正、機会の均等、交流の促進、包摂性、心のバリアフリー、自然との共生など)

②ウェルネス (健康)

誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること (身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康など)

③スマート (快適・先端)

新たな価値や可能性の創出に向けて、多くの人が挑戦していること (先端技術等の活用による快適性・利便性や生産性の向上、人材の育成、「スタートアップ」、「ゼロカーボン」など)

●人口減少の緩和に向けては、市民の希望出生率1.65に対し、合計特殊出生率が1.12と下回っていることから、社会全体で子どもと子育てを家庭を支えていること①や、性別を問わず働きながら子育てができる環境が整っていること①が重要。

●また、社会全体で虐待やいじめなどの子どもの権利が侵害される事態を防いでいること①や、若者の社会的自立を支えていること②が重要。

●さらに子どもは一人一人の状況に応じた最適な教育環境の中で③、心身ともに健やかに②、互いを尊重し合いながら①、学んでいることが重要。

SWOT	Strengths	Weaknesses	Opportunities	Threats
W×O		<ul style="list-style-type: none"> 1人当たりの市民所得の低さ 合計特殊出生率の低さ (20市中20位) 男性、女性ともに長時間労働の傾向 子育てへの負担感を抱える市民の増加 町内会加入率の低下 (地域意識や人間関係の希薄化) 	<ul style="list-style-type: none"> 価値観やライフスタイルの多様化 人生100年時代の到来、ライフシフト 	
W×T		<ul style="list-style-type: none"> 1人当たりの市民所得の低さ 子育てへの負担感を抱える市民の増加 生産年齢人口の減少、少子高齢の人口構造 		<ul style="list-style-type: none"> 全国的な少子・高齢化の進行 子どもの貧困や虐待の増加・教育格差
S×O	<ul style="list-style-type: none"> 都市機能の集積 		<ul style="list-style-type: none"> 価値観やライフスタイルの多様化 デジタル技術の急激な進歩 (AI、IoT) 国によるSociety5.0の推進、デジタル庁設置の動き 	

■基本目標 1 安心して子どもを生き育てることができる、子育てに優しいまち

※子どもと子育てを社会全体で支えていく観点を強化。
対応する現目標 9 安心して子どもを生き育てられるまち

■基本目標 2 誰一人取り残されずに、子どもが健やかに成長し、若者が希望を持って暮らすまち
⇒ (修正案) 誰一人取り残されずに、子どもが**伸び伸び**と成長し、若者が希望を持って暮らすまち

※虐待の防止、医療的ケアなど、誰一人取り残さない観点及び若者が希望を持ち、理想のライフプランが実現できる観点を強化。
対応する現目標10 (将来を担う子どもの成長と自立を支えるまち) と11 (若者が社会的に自立し活躍できるまち) を一本化

■基本目標 3 子どもたちが互いを尊重しながら学び合い、健やかに育つまち
⇒ (修正案) **一人一人の良さや可能性を大切に**する教育を通して、子どもが健やかに育つまち

※教育に関する目標を新設。一人一人の特性や興味・関心等に応じた最適な学びや、他の子どもなどとの協働した学びに関する観点を強化。

■第 2 回審議会でのいただいたご意見

○基本目標 1 について、「安心して」という表現ではなく、より主体的な「助け合いながら」というような自分が主役のイメージを出せると良い (吉岡委員)

⇒目指す姿 1 で子育てする人の交流の観点を記載し、子育てする人自身の主体性を表現

○基本目標 2、3 の両方に「健やか」が入っており、言葉が繰り返されている印象を受けた、また、基本目標 3 については「教育」という文言を入れて欲しい (吉岡委員)

⇒基本目標 2 の「健やか」を削除するとともに、基本目標 3 において目指すべき「教育」の姿を明記

【子ども・若者】基本目標1 安心して子どもを育てることができる、子育てに優しいまち

基本目標1 安心して子どもを育てることができる、子育てに優しいまち

■目指す姿 案

1 社会全体が、妊娠期を含めて子どもと子育てを支えています。また、子育てする人同士の交流も進んでいます。

※「地域等での子育て支援」、「妊娠期からの切れ目のない支援」、「経済的負担の緩和」の観点を記載。

2 多様なニーズに応じた保育サービスや、児童が放課後に過ごす安全で心地よい居場所が整っています。

※「多様な保育ニーズへの対応」や「保育人材の確保」、「放課後の児童の居場所確保」の観点を記載。

3 ワーク・ライフ・バランスが広く定着し、性別を問わず、働きながら安心して子育てができる環境が整っています。

※「働きながら子育てがしやすい環境整備」の観点を記載。

■私たちが取り組むこと 案

目指す姿	市民・企業など	行政
1	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと子育てを支える意識の向上【新規】 子育て世代の交流や助け合いなどの子育て支援活動の参加や推進 ※子育て世代の交流の観点【レベ】 etc	<ul style="list-style-type: none"> 地域等での子育て支援の促進 妊娠期からの切れ目のない支援 子育ての悩みや経済的負担の緩和 etc
2	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心な保育の実践 放課後の児童の居場所づくり【新規】 etc	<ul style="list-style-type: none"> 運営体制の向上及び人材確保への支援【新規】 様々な保育サービスの整備 放課後の児童の居場所の整備や環境改善 ※環境改善の観点【レベ】 etc
3	<ul style="list-style-type: none"> ワーク・ライフバランスや働き方の転換への理解と実践 男性の家事育児への理解と実践 etc	<ul style="list-style-type: none"> 子育て中の女性などに対する「新たな日常（働き方）」を推進する取組や再就職支援【新規】 ワーク・ライフ・バランスの推進 男性の家事育児への理解と実践に対する支援【新規】 etc

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 全国的な子育てに関する問題意識の高まりなどにより「子どもを育てやすい環境だと思う人の割合」は低下している状況にあり、行政による支援はもとより、家族の枠を超え、社会全体で子どもと子育てする人を支えていることが重要。
- 国定義の保育所待機児童数0を達成するとともに、「希望に応じた保育サービスを利用することができた人の割合」も増加しているが、保育士など子育てを支援する人材の確保や放課後に児童が利用する児童会館等の環境改善が課題となる中、多様なニーズに応じた保育サービスを利用できる環境や児童が放課後に過ごす安全な場所が整っていることが重要。
- 「仕事と生活の調和がとれていると思う人の割合」は低下し、子育てについて感じる悩みは「自分の自由な時間が持てないこと」、「仕事と子育ての両立が大変なこと」といった「親自身の悩み」が増加する中、男性の家事・育児への関わりを促し、男女ともに子育てと仕事を両立できる働き方への転換に取り組んでいくことが必要。

■第2回審議会でもいただいたご意見

- 基本目標1について、「安心して」という表現ではなく、より主体的な「助け合いながら」というような自分が主役のイメージを出せると良い（吉岡委員）
- 子ども・若者の基本目標1～3を達成するためには親が経済的に豊かである必要があることから、経済の基本目標10～12を実現させることが肝要であり、車の両輪（山本一委員）

【子ども・若者】基本目標2 誰一人取り残されずに、子どもが伸び伸びと成長し、若者が希望を持って暮らすまち

基本目標2 誰一人取り残されずに、子どもが伸び伸びと成長し、若者が希望を持って暮らすまち

■目指す姿 案

1 子どもの権利の保障が進み、子ども一人一人が自分らしく伸び伸びと過ごしています。また、虐待やいじめなど、権利が侵害される事態が未然に防がれ、事態が起きても迅速かつ適切に対応しています。

※「子どもの権利の推進」、「児童虐待防止」の観点を記載。

2 支援や配慮が必要となる子どもや家庭が、困難な状況に応じた適切なサポートを受け、安心して過ごしています。

※「困難を抱える子ども（障がい児、医療的ケア児など）への支援」、「ひとり親家庭への支援」や「子どもの貧困対策」の観点を記載。

3 若者は、安心して過ごせる居場所をよりどころに社会的に自立し、将来への希望を持ちながら輝いています。

※「若者の社会的自立」や「理想のライフプランの実現（就職、結婚等）」、「大学等の教育等」の観点を記載。

■私たちが取り組むこと 案

目指す姿	市民・企業など	行政
1	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの権利の理解や関心の向上 児童虐待防止等の重要性についての理解【新規】 etc	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの権利の理解促進 権利侵害の未然防止に向けた取組の推進【新規】 児童虐待等の支援体制の充実 etc
2	<ul style="list-style-type: none"> 障がい児や医療的ケア児等への理解【新規】 子どもの多様な居場所づくり【新規】 サポートの意識向上や実践【新規】 etc	<ul style="list-style-type: none"> 潜在化している困難の早期把握【新規】 子どもの多様な居場所づくりへの支援【新規】 支援や配慮が必要となる子どもや家庭へのきめ細やかな支援 etc
3	<ul style="list-style-type: none"> 成長を支える意識の向上と実践 若者の居場所づくり 大学等との連携 大学等における質の高い教育の提供【新規】 etc	<ul style="list-style-type: none"> 成長と自立への支援 若者の居場所づくり 理想のライフプラン実現に向けた支援【新規】 大学、地域、企業等との連携促進 etc

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

○札幌市は、平成20年（2008年）に「子どもの最善の利益を実現するための権利条例」を制定しており、引き続き、子どもの権利の保障を進めていくことが重要。また、いじめ・虐待等の事態が未然に防がれ、事態が起きても迅速かつ適切に対応していくことが重要。

○ひとり親家庭や障がいのある子ども、医療的ケア児、ヤングケアラーなど、困難を抱える子ども・家庭を早期に把握し、誰一人取り残さず、適切なサポートにより安心して過ごすことができることが重要。

○家庭の中での様々な問題や不登校、ひきこもりなど、社会的自立に困難を抱える若者は相当数存在しているため、家庭や学校、職場以外の若者支援施設、地域活動、インターネット環境などの第3の居場所（サードプレイス）もよりどころにして、困難を取り除き、社会的に自立していくことが重要。また、若者が考える理想のライフプランを実現し、将来への希望を持つことができる環境をつくることが重要。

■第2回審議会でのいただいたご意見

○基本目標2、3の両方に「健やか」が入っており、言葉が繰り返されている印象を受けた（吉岡委員）

【子ども・若者】基本目標3 一人一人の良さや可能性を大切にする教育を通して、子どもが健やかに育つまち

基本目標3 一人一人の良さや可能性を大切にする教育を通して、子どもが健やかに育つまち

■目指す姿 案

1 多様性が尊重された環境のもとで、子どもは、自分の特性や興味・関心に応じた学びと他の子どもとの協働的な学びなどを通して、自立に向けて成長しています。

※「個別最適な学び（GIGAスクール構想、少人数学級など）」
「協働的な学び（子どもの個性尊重）」の観点を記載。

2 子どもは、生涯にわたって心身の健康の保持増進を図る資質や能力を身に付けています。

※「健やかな心身の育成」の観点を記載

3 地域社会での体験活動など、多様な学びの機会が提供され、学校、家庭、地域、企業等が連携して子どもの成長を支えています。

※「多様な学びの機会の創出」の観点を記載。

■私たちが取り組むこと 案

目指す姿	市民・企業など	行政
1	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性への理解【新規】 ・ICT機器やデジタル教材の活用などに対する理解と実践【新規】 ・効果的な教育用ICT機器や学習コンテンツの開発と提供【新規】 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの多様性を尊重し、可能性を最大限引き出す学びの提供 ・異学年（校種）間の学びの提供【新規】 ・ICT機器やデジタル教材の整備及び効果的な活用【新規】 ・きめ細かな指導体制の整備【新規】 etc
2	<ul style="list-style-type: none"> ・運動機会の提供【新規】 ・適切な生活習慣の実践【新規】 ・専門性を活かした講義等の実施 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・体力・運動能力向上の推進【新規】 ・健康的な運動・生活習慣作りの推進 ・豊かな心を育む取組の推進 etc
3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校外での実体験を伴う実習活動や講師を派遣しての講義などの多様な学びの機会の提供 ・家庭における教育力の向上【新規】 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭、地域、企業等との連携促進 ・家庭における教育力向上のための支援【新規】 ・多様な主体と連携したICT等を活用した学びの提供【新規】 etc

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 多様な状況にある子どもたち一人一人の良さや可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びを実現することが必要。
- 国のGIGAスクール構想に基づく学校教育におけるICT活用の一層の推進や、災害・感染症等の緊急時であっても子どもたちの学びを保障していくことなどが求められている中、急速に変化する時代の変化を捉えた学びの環境が整ったまちを目指すことが必要。
- 「令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、札幌市の子どもの体力得点は政令市で下位となっており、子どもの生活習慣・食習慣・運動習慣の改善を通して、生涯にわたって心身ともに健康な生活を送るための資質・能力を育成することが必要。
- 「子どもが自然、社会、文化などの体験をしやすい環境であると思う人の割合」は横ばいである中、地域や家庭、企業など、多様な主体と連携して子どもの成長を支える体制を整備していく必要。

■第2回審議会でいただいたご意見

- 基本目標2、3の両方に「健やか」が入っているが、言葉が繰り返されている印象を受けた（吉岡委員）
- 基本目標3については、「教育」という文言を入れて欲しい（吉岡委員）